渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会ニュースレター

第７回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会を開催しました

平成 ２５年９月１２日（木）１０：００～１２：００ に、栃木県栃木市の藤岡遊水池会館において「第７回渡良瀬遊水地湿地保全・再生モニタリング委員会」を開催しました。

◆モニタリング委員会の概要

今回は委員７人全員にご出席いただきました。

【委員名簿】（五十音順・敬称略）

青木 章彦	作新学院大学女子短期大学部 教授
一色 安義	渡良瀬遊水地野鳥観察会 会長
大川 秀雄	とちぎ昆虫愛好会 幹事
大和田 真澄	栃木県植物研究会 会員
清水 義彦	群馬大学大学院 教授
高松 健比古	渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会 代表世話人
守田 優	芝浦工業大学 教授

はじめに、事務局より第６回委員会での指摘事項とそれらへの対応を報告し、委員の確認を頂きました。次いで、本年度のモニタリングの中間結果を報告し、調査結果の評価、考察時の留意点、今後のモニタリングのあり方などについてご意見やご助言を頂きました。また、事務局より今後の掘削に関する検討として掘削予定と造成の考え方を説明し、動植物重要種に配慮した掘削の進め方について意見がだされました。

○主な意見

- 地下水等のモニタリングについては、「浅層地下水位と深層地下水位の関係が明確になった」、「実験地の池における水収支を検討してほしい」等の意見がありました。
- 植物のモニタリングについては、「植物群落と土壌含水率の関係を既存のデータを活用し解析してほしい」、「掘削後に出現する植物は地歴との関係があるのではないか」等の意見がありました。
- 掘削に関する検討については、「掘削後のヤナギは適正に管理していないと樹林化する可能性がある」、「掘削箇所によって出現する植物が異なり、掘削が植物の多様性向上に寄与している」等の意見がありました。

今後のモニタリングや掘削に関する検討に対して、頂いたご意見やご助言を反映していきます。

【委員会での様子】